

里山の自然環境と伝統的な暮らし

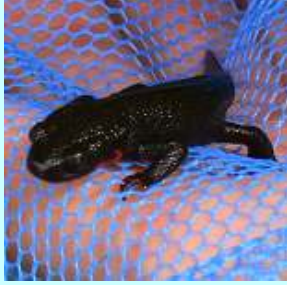
ねの しろ いし どう どころ
in 根白石 堂所

自然環境

両生類



アマガエル



イモリ



カナヘビ

爬虫類



シマヘビ

昆虫



タイコウチ



シオヤトンボ

植物



ゲンゲ

田んぼの肥料に使われる。



ヒメシャガ

準絶滅危惧種！



チゴユリ



ウワミズザクラ



ツクバネウツギ



サワオグルマ



ウスギタンポポ



ギンラン



マムシグサ

他にも小魚やドジョウ、イトトンボ、ヤゴなどたくさんの生物が里山では生活していた。

■里山の暮らし■



近くを流れる七北田川が、長い年月をかけて大地を削り、**河岸段丘**と呼ばれる階段状の地形を造った。民家の後方にある林は「**いぐね**」と呼ばれ、防風や薪取りなど、色々なことに使われている。



谷津と呼ばれる地形。小川によって削られた谷間を、**田んぼ**として利用している。谷奥には**ため池**があり、その水は田畑を潤している。

堂所の里山で生活する早坂さんに、ここでの暮らしを聞きました。



私の家では、いぐねのコナラなどを炭焼き小屋で炭にして、風呂やこたつに使っています。いぐねの木で、キノコの栽培もしています。家の建材にも、いぐねのスギやケヤキを使っています。水は湧き水を引き込んでおり、飲用にもなります。

炭焼き小屋で炭を作るときは、そこに泊まって見続けることもあり、大変です。完全に炭ができあがるまでには1週間もかかります。秋にはこの炭でバーベキューをするので、ぜひ来て下さい。



炭焼き小屋



湧き水

<まとめ>



まず、仙台市の市街地から7、8kmのところになんか自然豊かな里山があることに驚いた。

市街地のように便利な駅や商店はないけれど、自給自足にちかい生活を送っている早坂さんはとても生き生きして見えた。

里山は、間伐など人の手が入らないと成り立たない。日本の原風景といえる里山を、後世にいつまでも残していくことが必要だと思った。



早坂さん宅。いぐねの一本杉が屋根下に使われている。